

称せられた人、最後にアルマンといふ人がある。此の人は海軍士官であつて独りこの家族に不似合な百万長者になつた。この外に六人の妹があつたが、その人達は何れも皆博學多才の人々ばかりであつた。

~~~~~  
以上は甚だ不十分ではあるが、巨人エリゼ・ルクリュの生涯を素描したものである。私は曾て歐洲に放浪すること前後十年に及んだが、それは右のポール・ルクリュ家を本拠とし、その家の子供として安らかに勉強することを得たお蔭であつた。

ブリュッセル市新大学内にあつたルクリュ図書館の全圖書六万卷を、私は日本に持つて來たが、それは不幸にして大正十二年の大震災に際して、深川の倉庫に入れたまゝ烏有に歸して了つた。この災害をフランスのポール・ルクリュに報じた時、彼の返辭は「あの噴火山の讚美者エリゼの圖書が地震のために虚無に歸したなんて、この上もない結末ではないか。」

## バクニンを想ふ

一  
バクニンがベルンに逝いたのは、丁度今から五十年前の七月一日である。

今から追想しても不思議な程、自由自在に回転した男、ビクトル・ユウゴオ等の平和協會に加盟したかと思へば、忽ち総破壊の宣伝をする。無定形主義 (Amorphism) かと思へば、自治聯合主義を説く。汎スラヴ主義を唱導した後、忽ち世界主義革命に転化する。まことに捕捉し難い人物であつた。けれども此の不思議な「断片的」な生活活動を綜合して見ると、そこには堰止め難い強烈な、一貫した感激の大潮流が滔々として奔流して居ることに気付かせられる。それこそ本当に不思議な奇蹟である。

彼は実に人格者であつた。マルクスが一学究であつたに比して、バクニンは活動の人であつた。彼は其思想に於てブルウドンを承継したものであるが、併し其の活動の態度は寧ろ革命芸術の元祖ブランキに酷似して居る。自治聯合主義の彼が無定形主義の総破壊を絶叫した所なぞ、能くそれを証明してゐる。

彼はマルクスの如く知識的權威として其の感化を社会運動上に残しはしなかつた。又それを望みもしなかつた。彼の感化は其道徳的人格にあつた。クロボトキンも言つて居る。

「彼がロカルノに移つた後……彼がジュラ山中に創始した事業は、ジュラ人自ら独立して之を維持した。『ミハエル』の名（バクニンの名）は度々彼等の話題に上つた。然もそは不在首長の名、即ち其人の意見が法律となる所の首長の名としてではなく、寧ろ同志たる精神を以て、各々が愛を以て談る所の個人的朋友の名として、彼等の話題に登つたのであつた。バクニンの道徳的人格の感化に比して、其知識的權威の影響が非常に少なかつた事は、私の深い感動に打たれた処である。」

### 三

併し、それなればとて、彼が知識生活に於て乏しい点があつたかといふに、決して、さうではなかつた。彼が遺した労作が、何れも断片的であつたに係はらず、而も到る所にオリジナリテの光輝を放つて居る点は、思想家としても亦歴代の巨人であつたことを思はしめる。そして、此点も亦よくブランキに酷似して居る。ブランキが其思想に於て非常にオリジナリテに富んで居たに係らず、常に革命運動に東奔西走して、席の暖まる暇もなかつたので、其知識的労作も勢ひ断片的のものに止まつた、のと酷似して居る。

マルクスが、こつ／＼と仕事の山を築き上げたのに對比すると、それは全然別世界の人類かと思はれるほど、性格が異つてゐる。

### 四

バクニンが自治聯合主義の組合直接行動を提唱してサンヂカリズムの先驅をなしたことは誰も知つてゐる通りである。彼は「国際協會の政策」と題する文章の中に、単なる「政治上の自由」と云ふことは却つて労働者を誤らす幻影となる事を説き、且つ曰く、

「人は言ふ、一度この自由（選挙権の如き）を勝ち得んか、後日労働者をして、経済的平等と正義とを得せしむるの手段となるであらう。なる程、自由といふことは、偉大にして、有力な道具である。併し問題は、労働者達が果して其自由を利用し得るかどうか、若しやそが今日迄の如く、単に人を蠱惑する外見的虚構に留まりはしなかつたかといふ点にある。」

政治的自由を十分に利用するには、労働者は、もつと時間と物質的手段とを持たねばならぬ。

「吾等は一八四八年の革命後に、此のことをフランスで目撃したではないか？あの革命は政治的見地より見れば、人の希望し得る最高極点まで達したものである。仏国の労働者は確かに無頓着でも無知でもなかった。而もかの普通選挙が実施せられたにも拘らず、彼等はブルジョアの為すがままに任せざるを得なかった。これは何故であらう？即ち彼等が其政治的自由を、真実のものたらしめるのに必要な物質的手段を欠いてゐたからである。」

「労働者国際協会は、労働者の完全なる経済的解放を即時の且つ直接の目的とせぬ政治的煽動などとは断じて握手しない。」「協会規約の規定する如く、協会は、一切の国家的、又は地方的の政治を排除し、各国労働者間に、労働時間の短縮と賃銀の増額とを目的とし、労働大衆の協同と抵抗資金の積立とを手段とする、本質的に経済的な宣伝運動を起すであらう。」

## 五

これは前にジュラ同盟を支配した思想であり、後にサンデカリズムを起した思想である。此サンデカリズムの思想は、永い間マルクス主義と戦つて、漸く労働組合内に強い根を下すに至つたが、それが露国に入つて、ソビエチズムとなつたのである。露のソビエチズムは即ち仏のサンデカリズムを模倣したものである。然るに彼の大戦に際して、ソビエツト団体が漸く革命を進行してゐた時、ポリチヤンの一団体が横合から飛び出して、その革命を中断して了つた。そして中央独裁のブルジョア式

政体を再び建設するに至つた。是れが所謂ボルシエビズムである。ボルシエビストは即ち彼の最もイニシヤチヴに富んだ労働者のソビエツトを圧倒して、自ら新たなる専制官僚的ブルジョア階級を組織したのである。

## 六

バクニン死して五十年、世界は今や彼の思想と活動とに学ばねばならぬ事が甚だ多い。否、世界の社会運動は、今や彼の蒔いた強烈な種から復活の萌芽を起さうとしてゐる。今日の世界の保守的反動の強圧を反撥して、自由の、平等の、美の、平和の、労働王国を建設する者は、彼の思想と魂とに育まれた若くして潑刺たる労働青年の使命でなくてはならぬ。バクニンをして我が青年群の間に復活せしめよ!! 是れが私の今日の祈願である。